

波力利用の實驗

〔 2 〕

工 學 博 士 廣 井 勇

簡單なる設備で何の位の波力を利用する事が出来るか、前號に續いて實驗の表から戴せませす、廣井博士の原稿には計算式もありますが省略致しました。必ず前號の圖解及び本文を参照せられ度い。(編者)

前掲の諸表に於ける數量は、數多の觀測中より單に波高に準じ抜揃したるものにして、精確ならざるものあるべしと雖も、波高及び波長と動力の關係の一斑を示すに足るものとする。

次表は或期間繼續したる觀測の二三の實例にして、海上最も平穩なる時及び多少風波ある場合に於て、載荷のみにより得たる働量を示すものなり。

第 五 表
振角(度分) 働量(米珎)

22.15	165
16.00	83
18.10	112
24.10	207
20.35	150
31.15	344
24.10	207
27.30	262 載荷 470珎
16.00	83 水位 渠底上0.08米
22.35	180 波高 0.4乃至1.22米
33.15	386 波期 9.2秒
21.00	151 時間 2分37秒
9.30	30
11.45	48
7.15	20
22.35	180
合計	2608
毎秒	16.6

第 六 表
振角(度分) 働量(米珎)

46.35	810
39.10	592
30.00	351
24.30	241
37.45	545
39.10	592
46.35	810 載荷 525珎
44.15	716 水位 渠底上0.33米
34.50	460 波高 0.6乃至1.82米
41.50	661 波期 9.8秒
37.45	545 時間 2分36秒
34.50	460
31.35	390
20.35	168
47.40	840
40.30	631
合計	8812
毎秒	56.5

第 七 表
振角(度分) 働量(米珎)

33.15	373
26.20	245
41.50	574
23.50	207
14.20	72
29.55	304 載荷 450珎
38.40	500 水位 渠底上0.41米